

科目名	図書館概論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は図書館司書資格取得のための課程において入門的な役割を果たし、図書館の意義や役割をはじめ、歴史、利用者、司書、類縁機関等、館種別図書館の幅広い基礎知識を確実にするための科目として位置づけられる。よって、初年次(1年生)に履修することを薦める。

科目の概要

現代社会の中で図書館は、どのような意義があり、どのような役割や機能を有するのか。そして、図書館司書には、どのような可能性があるのか。本科目では、図書館の役割や機能、図書館司書の仕事等について考え、「図書館を考える行なう」を目標に受講生とともに図書館をデザインする。

学修目標(=到達目標)

授業時の講義内容の理解とともに、場合によって受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・ 図書館の基本的機能と役割、館種等、図書館という仕組み(システム)を理解する。
- ・ 図書館が置かれている社会的背景(歴史、制度、機能、メディア、情報化)を理解する。
- ・ 図書館司書の具体的な仕事内容とその役割を理解する。
- ・ 「図書館の未来像」について自分なりの考えをまとめることができる。

内容

1	オリエンテーション：本科目の進め方，図書館司書課程全体の授業構成
2	図書館の理念・社会的意義：図書館の構成要素と機能
3	図書館の種類と相互協力：類縁機関を含む
4	近年の先導的な図書館活動の事例：図書館の機能・役割を考える
5	図書館の自由
6	図書館司書の仕事(1)：司書の役割・業務モデル，専門性，資格・関係団体
7	図書館司書の仕事(2)：図書館サービスの種類・利用者のニーズ
8	情報リテラシー教育：「図書館」をどのようにツタエルか？
9	学校図書館の可能性
10	大学図書館の機能と役割
11	公共図書館の機能と役割(1)：図書館法規・行政・政策，地域社会と図書館
12	公立図書館の機能と役割(2)：選書論，図書館員の専門性
13	図書館の歴史：欧米の公立図書館，国内大学図書館も含む
14	図書館の未来をデザインする：図書館の課題と展望を考える
15	まとめ

評価

授業中・後の課題作成（40％）、授業への参画・発表（10％）、試験（50％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書の該当箇所を通読すること。

【事後学修】授業で提示した推薦図書や参考文献を参照しながら、配布資料（プリント）の確認、ワークシート課題に取り組むこと。自分自身の意見や考え方を整理すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】塩見昇『図書館概論』四訂版，日本図書館協会，2015（JLA図書館情報学テキストシリーズ ，1）

【推薦書】下記以外の推薦書は，授業中に紹介する。

- ・日本図書館協会『市民の図書館』増補版，日本図書館協会，1976
- ・前川恒雄，石井敦『新版図書館の発見』日本放送出版協会，2006（NHKブックス，1050）
- ・竹内慈『図書館のめざすもの』新版，日本図書館協会，2014

科目名	図書館制度・経営論		
担当教員名	内野 安彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2012年4月から文部科学省令による「大学において履修すべき図書館に関する科目」が新たに施行され、それまでの「図書館経営論」(1単位)に対し、法制度、自治体行政の制度・政策等が付加され、新たに2単位科目として生まれ変わったものである。

科目の概要

「制度」とは、法令、規則、基準、政策文書等をいう。「経営」とは、組織の維持・存続・発展を図る活動である。図書館経営とは、図書館活動の本質である。図書館サービスが準拠する制度を学び、さらに経営の要諦を学ぶことで、社会システムとしての図書館の理解を促す科目である。

学修目標(=到達目標)

図書館を積極的に利用し、当該授業で学習した内容を実践例を確認しながら学修すること。そのことで、図書館サービスの理解を促し、制度的・理念的に説明できるようになる。

内容	
1	ガイダンス
2	図書館制度の概観
3	図書館法
4	他館種の図書館に関する法律
5	図書館サービス関連法規 (子どもの読書活動推進法等)
6	図書館サービス関連法規 (著作権法、個人情報保護法等)
7	図書館政策
8	図書館の公共性
9	出版流通と図書館
10	図書館の組織
11	図書館の職員
12	図書館の財政(地方自治体の収支、地方自治体の予算書の見方)
13	図書館サービス計画
14	図書館の経営評価
15	まとめ

評価

授業への参加度20%、毎回のレポート20%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回の授業で提示する課題等の予習

【事後学修】毎回の授業で提示する資料・情報の確認

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】糸賀雅児・葉袋秀樹，『図書館制度・経営論』，樹村房

【推薦書】内野安彦，『図書館はラビリンス』，樹村房

内野安彦，『だから図書館めぐりはやめられない』，ほおずき書籍

【参考図書】 授業で適宜紹介する。

科目名	図書館情報技術論		
担当教員名	石川 敬史、近藤 秀二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：多くの図書館では、利用者への確に情報を提供するために、資料の登録やデータ管理をはじめ、OPACシステムを伴う図書館システムを導入している。さらに、貴重書の保存・整理・公開を目的に、資料をデジタル化し、公開している図書館もある。このように、近年の図書館業務には、図書館システムや情報技術の知識が欠かせない。本科目では、図書館業務を通じた情報技術を修得したうえで、図書館情報システム等の設計仕様を考え、図書館サービスをデザインする。

科目の概要：本科目では、図書館業務で必要とされる基礎的な情報技術について、具体的事例を交えながら修得する。さらに、図書館システムや図書館ホームページの仕組みを通して、コンピュータシステム・ネットワーク(セキュリティ含)をはじめとした情報技術を取り上げる。そして、これらの情報技術を活用した情報システムの仕様書を取りまとめ、未来の図書館情報技術を考察する。

学修目標(=到達目標)：授業時の講義内容の理解とともに、場合によっては、受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・図書館システムの仕組みを通して、図書館情報技術の基礎を理解すること。
- ・図書館ホームページやインターネット検索、電子資料の管理を理解すること。
- ・図書館システムの意義を理解し、情報技術を踏まえ仕様書を作成できること。

内容

1	オリエンテーション：図書館における情報機器とは？(石川)
2	コンピュータシステムの仕組み：全体像・意義・変遷(近藤)
3	コンピュータシステムの管理(1)：セキュリティポリシー・障害管理・情報漏洩対策(近藤)
4	コンピュータシステムの管理(2)：導入後の維持、体制、契約、仕様(近藤)
5	ネットワークの基礎：本学を事例としたLAN, WAN, WWWの仕組み(近藤)
6	検索エンジンの仕組み：検索エンジンの歴史, Webページ構築, CMSの種類(近藤)
7	データベースの仕組み：データの構造, データ管理, 流通など(近藤)
8	電子資料の流通, 管理：電子書籍, 電子ジャーナル, データベースの特徴(近藤)
9	情報技術の活用：システムの歴史から未来へ(近藤)
10	図書館における先導的な情報機器(石川)
11	図書館システムの最前線：特徴, 歴史, 種類(石川)
12	図書館システムの設計(1)：目録システム, 業務システム(石川)
13	図書館システムの設計(2)：OPACシステム, インターフェイス(石川)
14	図書館システムの設計(3)：未来の図書館システムの設計・評価(石川)
15	まとめ(石川)

評価

授業中・後の課題(30%), 授業への参画・発表(20%), 試験(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】図書館所蔵資料，推薦書，Webの情報などから該当箇所に関する用語の意味を整理すること。

【事後学修】推薦書とともに，配布したプリント（ワークシート等）を確認し，図書館情報技術について，自分の意見を整理すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。授業時にプリントを配布する。

【推薦書】下記以外は，授業中に提示する。

- ・時実象一ほか『情報検索の知識と技術 応用編：検索技術者検定2級対応テキスト』情報科学技術協会，2015.
- ・吉井隆明ほか『情報検索の知識と技術 基礎編：検索技術者検定3級対応テキスト』情報科学技術協会，2015

科目名	図書館サービス概論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：情報技術の進展により図書館が提供するサービスにも質・量ともに変化が伴う中で、図書館は利用者のニーズに応じて、さまざまなサービスが行われている。本科目では、図書館サービスの構造、意義等の概説と特徴的な図書館サービスの事例を紹介し、将来求められる図書館サービスのあるべき姿を考える。

科目の概要：社会や利用者はどのような図書館サービスを求めているのか。他方で、図書館は社会の変化に伴い、どのようなサービスを提供しているのか。本科目では、図書館サービスの構造や意義・図書館サービスの事例を解説する。また、社会の変化に伴い、図書館サービスがどのように変化し、利用者のニーズに応じてきたのかを歴史的に考察する。

学修目標(=到達目標)：授業時の講義内容の理解とともに、受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・図書館が提供しているさまざまなサービスを理解し、意義と方法を説明することができる。
- ・館種による図書館サービスの特徴や違い、利用者の要望を理解し、望ましい図書館サービスを説明できる。
- ・近年の図書館サービスの課題を踏まえ、将来図書館に求められるサービスについて、自分の考えをまとめることができる。

内容

1	オリエンテーション：図書館サービスとは何か？
2	図書館サービスの意義・種類(1)：利用者・館種別サービスの特徴
3	図書館サービスの意義・種類(2)：先導的な図書館サービス
4	図書館サービスとマネジメント：図書館サービスの設計
5	図書館利用者調査：事例と設計
6	図書館サービスの変遷・歴史
7	資料提供・閲覧サービス
8	貸出・返却の方法
9	読書案内・ブックリストの作成
10	利用対象に応じたサービス(1)：利用者の発見、サービスの構築
11	利用対象に応じたサービス(2)：高齢者、障がい者、多文化サービス等
12	図書館の経営とサービス：業務委託・指定管理者制度
13	図書館の利用空間の創造：利用者へのコミュニケーション、広報活動
14	図書館サービスの未来を考える
15	まとめ

評価

授業中・後の課題(40%)、授業への参画・発表(10%)、試験(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】「図書館概論」科目の教科書『図書館概論』（日本図書館協会）を用いて館種ごとのサービスを考える。

【事後学修】授業で提示した推薦図書や参考文献を参照しながら，配布資料（プリント）の確認，ワークシート課題に取り組むこと。自分自身の意見や考え方を整理すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】下記以外は授業中に提示する。

- ・前川恒雄『貸出』日本図書館協会，1982(図書館員選書,1)
- ・渡部幹雄『図書館を遊ぶ』新評論，2003
- ・花井裕一郎『はなぼん：わくわく演出マネジメント』文屋，2013
- ・小林卓，野口武悟『図書館サービスの可能性』日外アソシエーツ，2012
- ・佐藤聖一『1からわかる図書館の障害者サービス：誰もが使える図書館を目指して』学文社，2015

科目名	情報サービス論		
担当教員名	三澤 勝己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

図書館に関する科目の1つ。 図書館における情報サービスの意義と種類、その中心であるレファレンスサービスと情報検索サービスの方法、各種情報源の種類について解説する。さらに、それらを踏まえて、発信型情報サービスと図書館利用教育について解説する。 図書館利用者への情報サービスには、どのようなものがあるのか、を意識して学修することが望まれる。図書館における情報サービスに関する基本的知識を修得することを目標とする。具体的には、情報サービスの意義と種類、レファレンスサービスと情報検索サービスの方法、各種情報源の種類について理解し、それらを踏まえて、発信型情報サービスなどの新しい動向を理解することができるようになる。

内容

1	情報社会と図書館の情報サービス
2	情報サービスの意義と種類 (1) レファレンスサービスとレフェラルサービス
3	情報サービスの意義と種類 (2) カレントアウェアネスサービス
4	レファレンスサービスの理論 (1) 利用者の情報行動とレファレンスプロセス
5	レファレンスサービスの理論 (2) レファレンスサービスの組織・担当者とその評価
6	レファレンスサービスの実際
7	情報検索サービスの理論と方法
8	各種情報源の特質と利用法
9	各種情報源の種類と評価 (1) 参考図書
10	各種情報源の種類と評価 (2) データベース
11	各種情報源の種類と評価 (3) ネットワーク情報資源
12	各種情報源の組織化
13	発信型情報サービスの意義と方法
14	情報リテラシーの育成と図書館利用教育
15	まとめ

評価

レポート(10%)と筆記試験(80%)と授業への参加度(10%)により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回、次回の授業内容を予告するので、教科書の該当する部分を読んでおくこと (毎回 1 時間) 。

【事後学修】毎回、授業で説明を受けた部分を、教科書の該当する部分と講義ノートを照らし合わせて復習すること (毎回 1 時間) 。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】中西裕[ほか]『情報サービス論及び演習』、ライブラリー図書館情報学6、学文社

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	児童サービス論		
担当教員名	杉山 きく子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

司書課程の必修科目

科目の概要

公共図書館における児童サービスの基本的な考え方とその実際を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

基本的な児童書の読了、子どもの読書の重要性と特徴の理解、子どもと本を結びつける技術の習得

内容

1	ガイダンス 子ども時代とは 子ども時代の読書とは
2	児童資料 1 絵本
3	児童資料 2 昔話、わらべうた
4	児童サービスの意義、子どもの成長と読書
5	児童資料 3 幼年文学
6	児童資料 4 児童文学
7	児童資料 5 ノンフィクション
8	児童室の蔵書構成、分類と配架
9	児童サービスの実際 1 レファレンスサービス、フロアワーク
10	児童サービスの実際 2 おはなし会、ストーリーテリング、ブックスタート
11	児童サービスの実際 3 ブックトーク
12	図書館利用に障がいのある子どもたちへのサービス、学校との連携
13	学生による実演 1
14	学生による実演 2
15	学生による実演 3 まとめ

評価

4 頁のレポートと授業時間内の実演を7対3の比率とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】地域の図書館訪問、ブックトークまたはストーリーテリングの準備

【事後学修】自身の子どもの時代の読書を振り返る。基本的な児童書を読む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】『がんばれ！児童図書館員』 杉山きく子著 本作り空Sola
『読み聞かせABC』 都立多摩図書館

科目名	児童サービス論		
担当教員名	杉山 きく子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

司書課程の必修科目

科目の概要

公共図書館における児童サービスの基本的な考え方とその実際を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

基本的な児童書の読了、子どもの読書の重要性と特徴の理解、子どもと本を結びつける技術の習得

内容

1	ガイダンス 子ども時代とは 子ども時代の読書とは
2	児童資料 1 絵本
3	児童資料 2 昔話、わらべうた
4	児童サービスの意義、子どもの成長と読書
5	児童資料 3 幼年文学
6	児童資料 4 児童文学
7	児童資料 5 ノンフィクション
8	児童室の蔵書構成、分類と配架
9	児童サービスの実際 1 レファレンスサービス、フロアワーク
10	児童サービスの実際 2 おはなし会、ストーリーテリング、ブックスタート
11	児童サービスの実際 3 ブックトーク
12	図書館利用に障がいのある子どもたちへのサービス、学校との連携
13	学生による実演 1
14	学生による実演 2
15	学生による実演 3、まとめ

評価

4回のレポートを授業時間内の実演を7対3の比率とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】地域の図書館訪問、レファレンスの回答作成、ブックトークまたはストーリーテリングの準備

【事後学修】基本的な児童書を読む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】『がんばれ！児童図書館員』 杉山きく子著 本作り空Sola
『読み聞かせABC』 都立多摩図書館

科目名	図書館情報資源概論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館にはさまざまな資料が選択・収集・整理・保存(管理)され、各館独自のコレクションが形成され、利用者に情報が提供されている。本科目では、図書館コレクションを形成している図書館情報資源の種類、特質、流通等を広く概説し、図書館が情報資源を選択・収集・整理・保存(管理)する意義を考察し、利用者への提供方法をデザインする。

科目の概要

図書館には、どのような資料が収集され、どのような観点でコレクションが形成されているのか。そのためにも、図書館情報資源の特質を知り、図書館の館種や利用者のニーズも踏まえる必要がある。本科目では、図書館業務に必要な図書館情報資源の類型と特質、電子資料やネットワーク情報資源の動向を概説する。そして、コレクション形成を具体的に考え、利用者へ提供する方法をデザインする。

学修目標(=到達目標)

授業時の講義内容の理解とともに、受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえながら、自らの意見や考えをまとめること。

- ・図書館資料の種類や特徴、電子資料やネットワーク情報資源の長短を理解する。これらを踏まえ、図書館のコレクション構築をまとめることができる。

- ・学問分野別(人文・科学技術等)に調査方法の違いを発見し、情報資源の特性を理解する。

内容	
1	オリエンテーション:「図書館資料」から「図書館情報資源」へ
2	図書館資料の類型を考える:「図書館資料」の意義
3	図書館資料の種類と特質(1):印刷資料の特徴を考える
4	図書館資料の種類と特質(2):印刷資料の種類
5	図書館資料の種類と特質(3):非印刷資料の種類と特徴
6	電子資料・ネットワーク情報資源の種類と特質
7	人文・社会・自然科学分野の情報資源の特性
8	書店と図書館:出版・書店業界の現状
9	日本の出版流通システム・再販制度:書店と図書館
10	図書館における著作物の使用:著作権法を考える
11	図書館のコレクションをつくる(1):コレクション構築の意義,サイクル
12	図書館のコレクションをつくる(2):収集方針,選書,収集,体制
13	図書館のコレクションをつくる(3):資料の保管,分担収集保存,除籍
14	図書館のコレクションをつくる(4):評価手法
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（40％）、授業への参画・発表（10％）、試験（50％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書の該当箇所を通読すること。

【事後学修】授業で提示した推薦図書や参考文献を参照しながら、配布資料（プリント）の確認、ワークシート課題に取り組むこと。「図書館資料」について、自分自身の意見や考え方を整理すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】高山正也，平野英俊『図書館情報資源概論』樹村房，2012(現代図書館情報学シリーズ，8)

【推薦書】下記以外の図書は授業中に提示する。

- ・安井一徳『図書館は本をどう選ぶか』勁草書房，2006（図書館の現場，5）
- ・三多摩郷土資料研究会『地域資料入門』日本図書館協会，1999（図書館員選書，14）
- ・内野安彦『ちょっとマニアックな図書館コレクション談義』大学教育出版，2015
- ・日本図書館情報学会研究委員会『情報の評価とコレクション形成』勉誠出版，2015

科目名	情報資源組織論		
担当教員名	三澤 勝己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

図書館に関する科目の1つ。印刷資料・非印刷資料・電子資料及びネットワーク情報資源により構成される図書館情報資源の組織化について、その理論と技術を解説する。具体的には、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法などの角度から解説する。図書館情報資源の種類と組織化の方法、を意識して学修することが望まれる。図書館情報資源の組織化に関する理論と技術を理解することを目標とする。具体的には、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法などについて理解することができるようになる。

内容

1	情報資源組織化の意義と理論
2	書誌コントロールと標準化
3	書誌記述法の概説と主要な書誌記述規則 (1)
4	書誌記述法の概説と主要な書誌記述規則 (2)
5	主題分析の意義と考え方
6	主題分析と分類法 (1)
7	主題分析と分類法 (2)
8	主題分析と索引法 (1)
9	主題分析と索引法 (2)
10	書誌情報の作成と流通
11	書誌情報の提供について
12	ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ
13	多様な情報資源の組織化 (1)
14	多様な情報資源の組織化 (2)
15	まとめ

評価

レポート(10%)と筆記試験(80%)と授業への参加度(10%)により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回、次回の授業内容を予告するので、教科書の該当する部分を読んでおくこと (毎回 1 時間)。

【事後学修】毎回、授業で説明を受けた部分を、教科書の該当部分と講義ノートを照らし合わせて復習すること (毎回 1 時間)。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書 榎本裕希子[ほか]編 『情報資源組織論』 (ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 3、学文社)

科目名	情報資源組織演習		
担当教員名	富田 美樹子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「情報資源組織論」を履修してあること。

現在、目録の対象が紙資料からあらゆる情報資源に拡がり、目録をめぐる状況は大きく変化している。図書館業務において、資料・情報の組織化は図書館サービスの業務基盤となるものである。

情報資源組織化の原則、規則は国際的に改訂が行われているが、『日本目録規則』の改訂はまだなので、本科目では現在の目録法と分類法によって情報資源組織化の基本を学び、メタデータの作成等によって新しい目録概念を学ぶことを目指す。

- ・数多くの演習を通して学習することで、ツールの構成と利用法を理解し、情報資源組織化業務の基礎を習得する。
- ・今日の情報化社会において、情報資源の適切な組織化と発信は、情報共有化の基盤でもある。これを学ぶことで、歴大な情報を正しく見極める力をつける。社会生活にも役立つ。

内容

【受講制限】人数による受講制限を行うので、留意すること。

<前期：目録法>

導入、目録法の構造、目録規則の標準化、ISBD区切り記号法

記述総則、タイトルと責任表示

版、出版等

形態、シリーズ

注記、標準番号

標目、片かな表記法

典拠コントロール、書誌ユーティリティの利用

コンピュータによる目録作成、ネットワーク情報資源のメタデータ作成

総復習

まとめ

<後期：分類法>

主題アクセス、『日本十進分類法 (NDC)』の構成

分類記号の付与、補助表、形式区分

地理区分、海洋区分

言語区分、言語共通区分、文学共通区分

分類規程

歴史・伝記・地理分野

言語分野、文学分野

社会科学分野

主題分析と統制語彙適用

総合演習問題

まとめ

評価

授業への取組み・演習課題3割、ペーパーテスト7割で評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】目録・分類のルールは積み重ねなので前回の授業を見直し、自分が分からなかったことを把握しておくこと（授業は復習から入る）。授業欠席の場合は、友人にノートを写させてもらうこと。

【事後学修】宿題でよく復習し、きちんと提出すること。授業中の演習問題も、授業中に解け切れなかった場合は、改めて自分で考えて解いてみること。友人と教え合いながら解くのも良い勉強になる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】和中幹雄 [ほか] 共著『情報資源組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズ ; 10）日本図書館協会，2014

【参考資料】必要に応じてプリントを配布する。

科目名	情報資源組織演習		
担当教員名	富田 美樹子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

「情報資源組織論」を履修してあること。

現在、目録の対象が紙資料からあらゆる情報資源に拡がり、目録をめぐる状況は大きく変化している。図書館業務において、資料・情報の組織化は図書館サービスの業務基盤となるものである。

情報資源組織化の原則、規則は国際的に改訂が行われているが、『日本目録規則』の改訂はまだなので、本科目では現在の目録法と分類法によって情報資源組織化の基本を学び、メタデータの作成等によって新しい目録概念を学ぶことを目指す。

- ・数多くの演習を通して学習することで、ツールの構成と利用法を理解し、情報資源組織化業務の基礎を習得する。
- ・今日の情報化社会において、情報資源の適切な組織化と発信は、情報共有化の基盤でもある。これを学ぶことで、歴大な情報を正しく見極める力をつける。社会生活にも役立つ。

内容

【受講制限】人数による受講制限を行うので、留意すること。

<前期：目録法>

導入、目録法の構造、目録規則の標準化、ISBD区切り記号法

記述総則、タイトルと責任表示

版、出版等

形態、シリーズ

注記、標準番号

標目、片かな表記法

典拠コントロール、書誌ユーティリティの利用

コンピュータによる目録作成、ネットワーク情報資源のメタデータ作成

総復習

まとめ

<後期：分類法>

主題アクセス、『日本十進分類法 (NDC)』の構成

分類記号の付与、補助表、形式区分

地理区分、海洋区分

言語区分、言語共通区分、文学共通区分

分類規程

歴史・伝記・地理分野

言語分野、文学分野

社会科学分野

主題分析と統制語彙適用

総合演習問題

まとめ

評価

授業への取組み・演習課題3割、ペーパーテスト7割で評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】目録・分類のルールは積み重ねなので前回の授業を見直し、自分が分からなかったことを把握しておくこと（授業は復習から入る）。授業欠席の場合は、友人にノートを書かせてもらうこと。

【事後学修】宿題でよく復習し、きちんと提出すること。授業中の演習問題も、授業中に解け切れなかった場合は、改めて自分で考えて解いてみる。友人と教え合いながら解くのも良い勉強になる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】和中幹雄 [ほか] 共著『情報資源組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズ ; 10）日本図書館協会，2014

【参考資料】必要に応じてプリントを配布する。

科目名	図書館基礎特論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：本科目は図書館司書課程における選択科目である(前期・集中講義で開講)。図書館の未来像,そして図書館を取り巻く「仕事」を受講生とともに考え,後期の司書課程授業につなぐ。

科目の概要：本科目では,図書館の理念と20年後のありたい姿(ビジョン)を構築するため,図書館の未来を創造する。さらに,図書館司書科目における基礎科目・図書館サービスに関する科目等を幅広く踏まえながら,図書館のビジョンを実現するための戦術(方法)を考え,発表する。そして,図書館を取り巻く「仕事」を受講生とともに考える(外部講師も登壇する)。

学修目標(=到達目標)：本科目は講義形式であるが,一部演習形式で行なう。「図書館概論」等の科目を踏まえ,図書館のあるべき姿や実現するための方法を具体的に考え,発表する。

- ・企業や学校法人等の事例を踏まえ,理念やビジョンの必要性,意義,重要性を理解すること。
- ・環境変化や未来社会(人口,産業,技術等)を踏まえ,図書館の理念やビジョンを構築すること。
- ・ビジョンを実現するための施策を考え,受講生同士で発表すること。
- ・図書館を取り巻く「仕事」を具体的に考え,生涯にわたるキャリア形成を理解すること。

内容

1	オリエンテーション：図書館の理念・ミッション・ビジョンの事例
2	理念・ミッション・ビジョンとは何か?：必要性・意義を考える
3	図書館のビジョンを考える(1)：過去から未来の図書館を創造する
4	図書館のビジョンを考える(2)：ビジョンを実現する方法を考える
5	図書館の理念・戦略の発表
6	図書館を取り巻く仕事(1)：女性図書館員の仕事とキャリア形成
7	図書館を取り巻く仕事(2)：図書館関連企業の女性職員の仕事とキャリア形成
8	まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

授業中の課題作成(50%),授業への参画・発表(10%),最終レポート課題(40%)とし,総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】夏期集中講義のため、事前に推薦書等に基づき、図書館の理念とは何か、図書館の未来像について考える。

【事後学修】グループワークと講演会を踏まえ、図書館を取り巻く「シゴト」について、継続した生涯にわたるキャリアの意義を考える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。授業時に随時資料を配布する。

【推薦書】下記以外は授業中に提示する。

- ・ 尼川洋子，石川敬史『図書館の現場力を育てる』樹村房，2014
- ・ ジェームズ・C・コリンズ『ビジョナリーカンパニー』日経BP，1995
- ・ 小川徹ほか『公共図書館サービス・運動の歴史2』日本図書館協会，2006

【参考図書】下記以外は授業時に提示する。

- ・ 『ソフトバンク新30年ビジョン』ソフトバンククリエイティブ，2010

科目名	図書館サービス特論		
担当教員名	中沢 孝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館司書課程の選択科目です。図書館を利用する立場と司書課程の学修という、二つの立場を通して図書館を見ることができるのは、この時期だけかもしれません。その視点を活かして、図書館の役割を考えていきます。

科目の概要

図書館のサービス、図書館司書の仕事及び図書館の実情、課題 地域の中で図書館はどのような役割を担っているのか、住民生活に無くてはならない施設なのか を様々な実例からみんなで考えていきます。また、近年問題となっている「図書館の危機管理」(利用者トラブルや自然災害)も実際の事例をもとに解決策を探ります。

学修目標(=到達目標)

図書館の役割を理解することが大切です。そのことによって、図書館司書の仕事や現在図書館が抱える問題点を知り、「本を貸す」だけではない図書館の姿を見る事ができます。

内容

1	図書館の任務と役割	図書館で働くこと
2	図書館の任務と役割	地域の図書館の役割
3	図書館の任務と役割	選書 + 図書館の自由
4	図書館の任務と役割	利用者に愛される図書館、司書を目指すには
5	図書館の危機管理	こんなとき、あなたならどうする？
6	図書館の危機管理	こんなとき、あなたならどうする？ 利用者トラブルが発生したら
7	図書館の危機管理	こんなとき、あなたならどうする？ 自然災害が起きたら
8	まとめ	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価

授業への参加度80%・課題(レポート等)20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 オススメの本や今まで読んで印象に残った本を6冊紹介して下さい。授業は2日間を予定しています。1日目3冊、2日目3冊を必ず持参して下さい。あなた自身（もしくは知人）が「図書館で注意されたこと」を書いてください。何が原因で注意を受けたのか、職員の態度やどんな気持ちになったかを具体的に書いてください。【事後学修】まとめのレポートを提出してもらいます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しません。授業中にプリントを配布します。

【推薦書】『みんなで考えるこんなときどうするの？』（日本図書館協会，2014）

科目名	図書館情報資源特論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：本科目は図書館司書課程の「選択科目」である。多彩な主題領域，資料種別を視野に入れつつ，「参加と協働の図書館」をテーマに講義と演習を行なう。

科目の概要：図書館には，さまざまな学問領域を背景に多様な種類の資料が所蔵されている。図書館司書は，常に幅広い主題分野にアンテナを張り，利用者の動向を意識して図書館サービスを創造する必要がある。本科目では，「図書館情報資源概論」や「情報サービス演習」を補い，図書館司書として必要な人文科学，社会科学，自然科学・技術等の幅広い分野における知の構造や資料の特性を踏まえ，公立図書館や書店など外部で資料の発信方法を構築する。

学修目標 (=到達目標)：授業時の講義内容の理解とともに，受講者同士のワークショップを行ない，他の受講生の意見や考えを踏まえ，自らの意見や考えをまとめること。

・公共図書館でのレファレンスサービス，大学・専門図書館における研究支援のために不可欠な各分野で使用される代表的な資料，情報源を説明できる。

・多様な図書館資料と利用者とを結びつける手法を具体的に考え，実際の図書館・書店の現場にて利用者の目線を踏まえ展示作業を行う。

内容

1	オリエンテーション：図書館資料の種類，図書館の展示の特徴
2	さまざまな学問分野と専門資料：テーマの発見と特集コーナーの企画
3	資料展示の方法と制作 (1)：資料の選書
4	資料展示の方法と制作 (2)：POP制作の基礎，方法，利用者の視点
5	資料展示の方法と制作 (3)：発表・展示作業
6	情報利用の特性 (1)：人文・社会科学分野 (地域資料，灰色文献を含む)
7	情報利用の特性 (2)：自然科学・技術分野 (電子資料も含む)
8	まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

授業中・後の課題 (40%) ，授業・演習時の発表 (20%) ，最終課題 (40%) とし，総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】地域の書店や公共図書館を見学し，特集図書コーナーに配置されている資料，POP，展示を考える。

【事後学修】制作した特集コーナーを振り返り，POPや選書した資料の評価（自己評価）方法を検討する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】下記以外は，授業時に提示する。

- ・丸本郁子監修『図書館を演出する』メディアアイランド，2010
- ・石川香代ほか『売上倍増！パターンで書く3分間POP』廣済堂出版，2011
- ・吉岡裕子，遊佐幸枝『発信する学校図書館ディスプレイ』少年写真新聞社，2015

【参考図書】下記以外は授業時に提示する。

- ・『ライブラリー・リソース・ガイド』創刊号～